

重大ニュース！

～浪人は不利？～

＜高2生が浪人すると、
新入試（大学入学共通テスト）を受験！
浪人生への配慮なし！＞

(2018/6/18 大学入試センター発表)

①新入試では現高2生向け問題は作成なし！

センター試験が2019年度の実施で廃止され、2020年度から新入試（大学入学共通テスト）が開始されます。大学入試センターは、6月18日、「大学入学共通テストにおいて、浪人生用の問題は作成しない」方針を発表しました。現在高2生のみなさんが浪人すると、新入試（大学入学共通テスト）を受験しなければなりません。ですから、「新テストは関係ない。現高1生用だから。」と、考えてはいけません。「浪人したら新テスト」＝「余分な勉強が増える」わけですから、現高2生は「絶対現役合格」の気概を持って勉強しましょう。

②新入試(大学入学共通テスト)の英語は筆記・リスニングの配点と同じ？

新入試のトライアル（試行）では、英語の筆記・リスニングの配点を均等にする予定です。現在は、筆記200点・リスニング50点ですから、これが均等（同じ）配点になるとすると衝撃的な変化といえます。浪人すれば、リスニング対策が必至です。また、外部（民間）英語試験の活用・英語4技能の評価など新入試に向けて新たな対策が必要になります。

③新入試トライアル…リスニングは「正直言って難しい！」

(2018/6/2 産経新聞)

大学入試センターは、大学入学共通テストに向けた試行調査（英語）の確定正答率を発表しました。特にリスニングの正答率が低く、生徒へのアンケートでは「難しい」が8割に上りました。入試センターでは、今後難易度の調整を検討する予定です。具体的には、リスニングの正答率は全体で最低の3.1%でした。

だから

現役合格を目指すなら、「高2の夏から受験勉強！」

<東大、英語民間試験を活用へ>

(2018/4/27 日本経済新聞)

東京大学は、4月27日、2020年度から始まる大学入学共通テストで導入される英語の民間試験について、「合否判定に使う」方向で検討を始めたと公表しました。3月の段階では「判定に用いない」との考えを示していましたが、方針を事実上転換した形になります。東大が活用する方針を固めたことで、他の国立大・私立大でも導入される可能性があります。

<早稲田大学 政治経済学部 一般入試で「数学」必須化へ>

6月7日、早稲田大学は政治経済学部の一般入試において、「数学の受験を必須化」と発表しました。「経済学・政治学において統計・数理分析など数学が求められる分野が増えており、数学的ロジックに慣れておく必要がある」と政治経済学部の須賀教授は変更の狙いを解説しています。共通テスト・英語民間試験・学部独自試験の3種類が必須です。

共通テスト

- 必須科目：外国語・国語・数学ⅠA
- 選択科目：地歴B・公民・数学ⅡB・理科から1科目（理科基礎の場合は2科目）

その他のテスト

- 英語民間試験
- 日英両言語による長文読解（記述解答含む）